

学校臨床心理学特論

担当教員 一牛田 洋一

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

小・中・高等学校における臨床心理学的援助について、スクールカウンセラーの視点から、より実践的な介入方法について海外の実践報告も参照しながら検討していく。また、学校臨床における重要なテーマの一つである、学校での危機対応、緊急支援のあり方についても、その先進国である米国の資料も参考にしながら検討していく。その他、発達障害などの注目されている問題について事例を中心に検討もしていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション 学校臨床心理学とは
2	学校臨床心理学の今日的課題（1）：これからの学校臨床心理学
3	学校臨床心理学の今日的課題（2）：proactive なスクールカウンセリングとは
4	学校臨床心理学の今日的課題（3）：developmentalなスクールカウンセリングとは
5	TECHNIQUES FOR SOLUTION IN THE SCHOOL(1)
6	TECHNIQUES FOR SOLUTION IN THE SCHOOL(2)
7	TECHNIQUES FOR SOLUTION IN THE SCHOOL(3)
8	TECHNIQUES FOR SOLUTION IN THE SCHOOL(4)
9	学校での危機対応：SCHOOL CRISIS RESPONSE TEAM(1)
10	学校での危機対応：SCHOOL CRISIS RESPONSE TEAM(2)
11	学校臨床心理学の今日的話題：発達障害とその対応を中心に（1）
12	学校臨床心理学の今日的話題：発達障害とその対応を中心に（2）
13	事例検討（1）
14	事例検討（2）
15	学校臨床心理学総括
16	試験（口頭試問）

【履修上の注意事項】

英語の文献資料からレポートの作成をしていく機会が多くなるので、講義時には英和辞書などの準備は必携である。

【評価方法】

発表レポートの内容、発表内容に対するディスカッションへの参加、口述試験などから総合的に評価する。

【テキスト】

講義時に印刷をして配布する資料を使用する。

【参考文献】

講義時に随時適切な参考文献を紹介していく。

グループアプローチ特論

担当教員 平山 篤史

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

心理臨床の臨床現場において、グループを扱えることは支援の為の有効な武器となる。グループのダイナミクスを捉え、効果的に介入することにより、グループメンバーの相互作用を最大限に支援に生かして行ける。この講義では、グループアプローチの中でも、心理劇を中心としながら、ロールプレイングやソシオドラマあるいはSST（社会技能訓練）についても実習を交えながら学習する。実際にグループでの体験、ファシリテーターの役割を通じて、グループアプローチに関する理論と実際について学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	集団心理療法の基礎①
3	集団心理療法の基礎②
4	対人交流を促すための集団心理療法①参加者体験
5	対人交流を促すための集団心理療法②参加者体験
6	対人交流を促すための集団心理療法③リーダー体験とスーパーヴィジョン
7	対人交流を促すための集団心理療法④リーダー体験とスーパーヴィジョン
8	言語のやりとりを中心とした集団心理療法①参加者体験
9	言語のやりとりを中心とした集団心理療法②リーダー体験とスーパーヴィジョン
10	言語のやりとりを中心とした集団心理療法③リーダー体験とスーパーヴィジョン
11	自己洞察を促すための集団心理療法①参加者体験
12	自己洞察を促すための集団心理療法②参加者体験
13	自己洞察を促すための集団心理療法③リーダー体験とスーパーヴィジョン
14	自己洞察を促すための集団心理療法④リーダー体験とスーパーヴィジョン
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

グループ活動の実践が中心となる。グループ活動の目的を設定し、活動の企画、運営、進行を行う。グループ活動をVTR撮影し、終了後に振り返りのセッションを持つ。グループ活動自体だけでなく、準備や振り返りにおけるスタッフの協働、役割分担についても学ぶことが重視される。

【評価方法】

出席状況、グループ活動への参加態度、グループ体験報告を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

【参考文献】

「グループサイコセラピー」 アーヴィン・D・ヤーロム、ソフィア・ヴィノグラードフ（共著）川村優（訳）金剛出版

高齢者福祉特論

担当教員 榑藤 恭之

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

認知機能、身体機能といった人の機能側面および、人間関係や社会的役割といった社会的側面の加齢変化を中心として、加齢が人の行動について与える影響について解説する。

【授業の展開計画】

1. 世界と日本の高齢化
2. こころの加齢とはなにか
3. 脳の加齢と認知の加齢
4. 感覚と知覚の加齢
5. 注意の加齢
6. 記憶の加齢
7. 知能の加齢
8. 創造性と知恵
9. 心理的加齢に影響する諸要因
10. 人格の加齢と発達
11. 高齢期の適応とサクセスフルエイジング
12. 超高齢者の心理
13. 認知症の心理学的諸問題
14. 高齢者ケアにおける心理学的諸問題
15. 生涯発達における老年期

※あくまでも予定であって、変更することもあり得る。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

社会心理学特論

担当教員 中村 完

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会心理学は、心理学・社会学・文化人類学の三学問の視点を有機的に統合させて、人間社会現象を理解する科学である。まず主なテーマについて概観し、これらに接近する主な研究方法について考察する。社会でより良く適応するためには、対人関係をスムーズに進行させることである。そこで、対人関係の善し悪しを分岐すると思える対人認知のあり方、望ましい対人観、行動の原因帰属論について論述する。また、沖縄社会の理解、その基礎知識として、文化と人間行動及び自己観、社会的アイデンティティ論について論述する。そして、沖縄の県民意識について考察する。なお、授業の最終部分では、受講生が関心あるテーマについて発表し、全員で議論する。

【授業の展開計画】

また、社会心理学と臨床心理学との連携について考察する。なお、第1回のオリエンテーション時に受講生との話し合いによって展開計画が若干変更されることもある。

1. オリエンテーション、本授業の進行の方法、受講者からの希望・期待
2. 社会心理学とは、社会心理学の主なテーマ、社会心理学の小史
3. 社会心理学の研究法（研究デザインとデータ収集法）
4. 社会心理学と臨床心理学のインターフェイス、両心理学の立場、臨床社会心理学の領域と目的
5. 対人認知論、望ましい対人観とは
6. 原因帰属理論、帰属の特徴とゆがみ
7. 文化と人間行動、独立的自己観、協調的自己観
8. 社会的アイデンティティ論、この理論の内容、アイデンティティの多様性
9. 沖縄の県民意識（1）県民意識調査の結果からの考察
10. 沖縄の県民意識（2）戦争、自治、人権等に関する不安認知
11. 学生による課題発表（1）
12. 学生による課題発表（2）
13. 学生による課題発表（3）
14. 学生による課題発表（4）
15. 学生による課題発表（5）
16. 本特論の総括的考察 学んだ事のまとめ（テストに代えて）

【履修上の注意事項】

- ◎ 次回の予告テーマについて予習すること。
- ◎ 毎回のディスカッション時に自分の考えを述べること

【評価方法】

評価は、1) 出席点、 2) 課題発表の内容、 3) ディスカッションへの参加度、等から総合的に行う。

【テキスト】

毎回資料を配付する。

【参考文献】

(1)大橋英寿・細江達郎 編著（2005）「改訂版 社会心理学特論」放送大学教育振興会、(2)M. A. ホッグ/D. アブラムス（吉森護・野村泰代 訳）（1995）「社会的アイデンティティ理論－新しい社会心理学体系化のための一般理論－」北大路書房、(3)坂本真士・丹野義彦・安藤清志 編（2007）「臨床社会心理学」東京大学出版会

社会福祉原理特論

担当教員 保良 昌徳

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

本講義では、現在の社会福祉政策や社会福祉実践に関わる基本的な部分に目を向け、福祉学の現状と今後の展望等について考察する。特に、社会福祉全体を支える基本的視点や実践の原理的な側面について、批判的に捉え直すとともに、福祉学に関わる諸理論への理解を深め、新たな地平の模索を試みる。

【授業の展開計画】

*一年を大きく5つに分け、以下のテーマに取り組む

1. 福祉学の学問的構造・位置づけ・今後の展望等について
 - ・学問とは何か、その成立要件とは何か等について考察する。
 - ・人間や社会に関わる諸学問ながれや現状等について理解する。
 - ・福祉学の学問的構造・位置づけ等についてまとめを試みる。
2. 社会福祉の代表的理論とその課題について
 - ・日本における福祉理論のながれと現状を理解する。
 - ・欧米における人間・社会に関する主な理論等と福祉学との関連を理解する。
 - ・諸理論と福祉学との関連においてまとめを試みる。
3. 福祉国家の国際動向と日本のあり方
 - ・福祉国家論の概要（ながれ・現状・課題等）を理解する。
 - ・いくつかの福祉国家の政策原理の課題等について考察する。
 - ・福祉国家の展望や課題等についてまとめを試みる。
4. 社会福祉実践理論を今後の課題
 - ・社会福祉施策の対人実践の基本原則・理念等について理解する。（日本）
 - ・地域・社会に対する福祉施策理念等について理解する。
 - ・ソーシャルワークの本質・原理等について理解する。
 - ・社会福祉援助・ソーシャルワーク等の関連性等についてまとめを試みる。
5. 21世紀の日本の社会福祉の動向と展望
 - ・日本の戦前から戦後、また戦後の社会福祉政策の基本的視点等について理解する。
 - ・特に90年代等から現在に至る改革の変遷及びその基本的視点について理解する。
 - ・今後の日本の福祉国家として将来像・あり方等についてまとめを試みる。

【履修上の注意事項】

1. 受講生は、各テーマについて所定の期日までにレポートを提出こと
2. 個別に発表し、討論を通して考察を深めること
3. 全体の総括を通して、各自の視点を整理する
4. 再度、各自のレポートを整理し提出すること
5. 年度末に報告書を作成すること

【評価方法】

*出席状況、レポートの提出状況とその内容、討論への参加とその内容および最終報告書の内容等をもとに総合的に評価する。

【テキスト】

*必要に応じて提示する。

【参考文献】

*必要に応じて提示する。

社会福祉制度特論

担当教員 北島 英治

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

ソーシャルワークの専門価値、専門機能、専門知識、専門技術について学ぶ。原著、原論文に基づき、その歴史的経緯、発展過程を概観し、現代のソーシャルワーク実践に関する研究について、ビデオやDVDの視聴覚機器を利用し、演習形式を取り入れ、一緒に議論し、深めていきたい。

【授業の展開計画】

- 1) オリエンテーション
- 2) ソーシャルワークの歴史的概観
- 3) 社会福祉とソーシャルワーク
- 4) ソーシャルワークの方法の発展（ケースワーク、グループワーク等）
- 5) ソーシャルワークの分野
- 6) ソーシャルワークの価値
- 7) ソーシャルワークの機能
- 8) ソーシャルワークの理論（I）
- 9) ソーシャルワークの理論（II）
- 10) ソーシャルワークの技術（I）
- 11) ソーシャルワークの技術（II）
- 13) ソーシャルワーク実践の事例研究（I）
- 14) ソーシャルワーク実践の事例研究（II）
- 15) スーパービジョン
- 16) まとめ

【履修上の注意事項】

視聴覚機器を使い、演習や双方向の議論と話し合いをしていきたい。

【評価方法】

最後に、「ソーシャルワークについての自分の考え」をレポートとして提出する。

【テキスト】

各講義において、プリントや資料を配布するので、特定のテキストは使用しない。

【参考文献】

『ソーシャルワーク論』北島英治、ミネルヴァ書房

社会倫理学特論

担当教員 小柳 正弘

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

社会倫理学とは、人間のありようについて社会との関わりで哲学的な考察をおこなうものである。この授業では、「ひととひととがささえあうことで実現される幸福」もしくは「ひととひととがささえあうことで幸福を実現すること」としての「社会福祉」の原理と倫理について、テキストの批判的読解と受講者の議論により、多面的かつ根底的な検討を試みる。

【授業の展開計画】

- 授業は以下のような段取りでおこなう。
 - ・ 文献について受講者が交替で分担してレジュメ（A4、1～2枚、40字×30行）をつくり、概要を報告する。
 - ・ 報告担当者以外の受講者は批判的コメント（A4、1枚、40字×10行程度）を準備する。
 - ・ 概要とコメントふまえて全員で議論する。
- 松田純ほか『ケースブック 心理臨床の倫理と法』の総論（倫理学基礎理論の部分）と長友敬一『現代の倫理的問題』の生命倫理の部分等を基本文献とする。
- レジュメの作成方法については、必要ならば、最初に全員が同一の文献で演習する。

【履修上の注意事項】

授業に主体的に参加して学問的なスキルと問題意識の錬磨をめざす気概をもった受講生をのぞむ。

【評価方法】

報告、レジュメ、コメント、議論への貢献などを総合的に評価する。

【テキスト】

松田純・江口昌克・正木祐史編『ケースブック 心理臨床の倫理と法』知泉書館
長友敬一『現代の倫理的問題』ナカニシヤ出版

【参考文献】

授業中に、適宜、紹介する。

障害者福祉特論

担当教員 岩田 直子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

国内外の障害者施策の発展の歴史を踏まえた上で、今日、障害者が直面している諸問題について議論する。また、主要先行研究を整理分析する。受講生の関心に合わせた文献も取り扱う。

講義では、障害の「社会モデル」に基づいて批判的に研究を行う。

【授業の展開計画】

講義のオリエンテーション時に示す

【履修上の注意事項】

先行文献・論文を幅広く読むこと。

講義だけでなく、積極的にシンポジウムや学会に出席すること。

【評価方法】

①事前学習課題の取り組み、②講義時の積極的参加の状況、③レポート内容を総合的に評価する。

【テキスト】

随時、論文、資料、文献を紹介していく

【参考文献】

- ① コリン・バーンズ他著杉野昭博他訳『ディスアビリティ・スタディーズ～イギリス障害学概論』、明石書店。
- ② 杉野昭博(2007)『障害学～理論形成の射程～』、東京大学出版会。 その他

障害児（者）援助特論

担当教員 知名 孝

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、将来臨床心理士を希望する大学院生を対象に、「地域支援」や「ケースワーク・ソーシャルワーク実践」について、実践的な理解をすすめていくことを目的とする。精神科医療、児童福祉、障害福祉、発達障害児者支援、ひきこもり支援など、さまざまな分野において臨床心理士によるケースワーク・ソーシャルワーク具体的な実践の方法と知識について掘り下げていきたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	心理臨床とソーシャルケースワーク (1)
2	心理臨床とソーシャルケースワーク (2)
3	心理臨床とソーシャルケースワーク (3)
4	資源を学ぶ (障害福祉サービス) 1
5	資源を学ぶ (障害福祉サービス) 2
6	資源を学ぶ (学校教育福祉)
7	資源を学ぶ (精神保健福祉法に関わる資源)
8	資源を学ぶ (ひきこもり支援・児童福祉)
9	心理臨床としての地域支援・ケースワーク実践 (発達障害)
10	心理臨床としての地域支援・ケースワーク実践 (発達障害)
11	心理臨床としての地域支援・ケースワーク実践 (精神保健福祉)
12	心理臨床としての地域支援・ケースワーク実践 (ひきこもり介入)
13	心理臨床としての地域支援・ケースワーク実践 (児童福祉)
14	心理臨床としての地域支援・ケースワーク実践 (触法少年)
15	法人をつくる、資源をつくる
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

- 1) 出席
- 2) 講義中のディスカッションへの参加（講義では学生とのやりとりを前提とする）
- 3) 講義中の課題の提出
- 4) 期末テストないしレポートの提出（どちらにするかは講義のなかで連絡する）

【テキスト】

特定のテキストは設定していない。それぞれのテーマに添ったテキストを授業のなかで周知していく。

【参考文献】

- 『ADHDの明日に向かって』（田中康雄著・星和書店）
 『統合失調症を持つ人への援助論』（向谷地生良著・金剛出版）

障害児（者）心理学特論

担当教員 -財部 盛久

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業は発達障害児者の発達および心理学的な特徴について解説し、臨床心理学的介入について現在適用されている介入方法について検討する。さらに発達障害領域における臨床心理士の役割について検討する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	発達障害総論 対応の概要
3	発達障害理解のための基礎理論（1）
4	発達障害理解のための基礎理論（2）
5	発達障害理解のための基礎理論（3）
6	発達障害の心理特性（1）
7	発達障害の心理特性（2）
8	発達障害の心理特性（3）
9	発達障害の心理特性（4）
10	発達障害の心理特性（5）
11	発達障害への臨床心理学的介入（1）
12	発達障害への臨床心理学的介入（2）
13	発達障害への臨床心理学的介入（3）
14	発達障害への臨床心理学的介入（4）
15	発達障害と臨床心理士
16	試験

【履修上の注意事項】

この授業は受講生自身が積極的に考え、学ぶことを基本にしている。したがって、常に疑問をもち、それを解決しようとする姿勢をもって授業に参加のこと。したがってディスカッションの際、受講生は積極的に参加して欲しい。

【評価方法】

試験および提出されたレポートにより評価する。レポートは授業ごとに提出するものと学期末に提出するものがあるのが、提出されたレポートを総合的に評価する。評価の際は試験、レポートとも基本的な知識に基づいて受講生の考え方が展開されていることを重視する。

【テキスト】

特に指定はしない。必要に応じて資料を配付する。

【参考文献】

- ・子どもの理解と支援のための発達アセスメント 本郷一夫編 有斐閣選書 ¥1,800+税
- ・自閉症の関係障害臨床 小林隆児 ミネルヴァ書房 ¥3,500+税

心理学研究法特論

担当教員 木村 堅一

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

心理学で扱う研究対象はかなり幅があるが、実は共通点も多い。どの領域の心理学者であっても、必ずその研究対象に関わる現象を測定し、測定されたデータを加工、分類、比較、解析して、学術貢献あるいは社会貢献するための「新たな知・技術」を生産することを目的としている。本講座では、大学院での修士論文の執筆に役立つ心理学の「研究法」に焦点を当てる。特に、受講生自らの研究デザインをお互いにブラッシュアップしあうことを目的とする。

【授業の展開計画】

第 1 回	コース紹介	
第 2 回	科学とは何か	
第 3 回	科学についての方法	
第 4 回	仮説を発展させる	
第 5 回	数的表現による行動の記述	
第 6 回	推測統計	
第 7 回	仮説を検討する	
第 8 回	統制	
第 9 回	実験の論理を応用する 1	
第 10 回	実験の論理を応用する 2	
第 11 回	実験の生態学	
第 12 回	研究論文の批判的読解の実践 (事例 1)	
第 13 回	研究論文の批判的読解の実践 (事例 2)	
第 14 回	研究論文の批判的読解の実践 (事例 3)	
第 15 回	研究論文の批判的読解の実践 (事例 4)	講義のまとめ

【履修上の注意事項】

対話と討論が必須である。出席よりも参加が重要である。

【評価方法】

- 1) 授業への取り組み (50%) : 授業での発表・質疑応答・積極的な参加
- 2) 課題レポート (50%)

【テキスト】

W. J. レイ (著) 岡田 圭二 (訳) 2003 エンサイクロペディア心理学研究方法論
北大路書房

※その他、随時資料を配布する。

【参考文献】

高根正昭 1979 創造の方法学 (講談社現代新書553) 講談社

心理統計法特論

担当教員 泊 真児

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、実証的研究を行う上での有力な手法である統計的データ解析法について、心理統計学の考え方も概説しながら演習中心に学んでいきます。目指すのは、受講生がなるべく独力で、一通りの主要なデータ解析法が扱えるようになることです。受講生各自の研究デザインやデータとできるだけ関連づけながら授業を展開し、実際にコンピュータと統計パッケージ(SPSS等)を用いたデータ解析演習に取り組みます。

【授業の展開計画】

- 1 週目：履修登録・オリエンテーション：本講義の進め方の説明等，心理学の研究法とは？
- 2 週目：研究デザインとデータ解析の関係
- 3 週目：度数の違いの検定～ χ^2 乗検定と残差分析～
- 4 週目：平均値の差の検定(1)～1 要因分散分析～
- 5 週目：2 要因分散分析における主効果と交互作用とは？
- 6 週目：平均値の差の検定(2)～2 要因分散分析：被験者間計画～
- 7 週目：平均値の差の検定(3)～2 要因分散分析：被験者内計画～
- 8 週目：相関関係の分析～相関係数と連関係数～
- 9 週目：因果モデルに基づく説明と予測のための方法～重回帰分析とパス解析～
- 10週目：多くの変数を少数の指標にまとめる方法～主成分分析～
- 11週目：変数間の背後にある要因を探る方法～因子分析(1)～
- 12週目：変数間の背後にある要因を探る方法～因子分析(2)～
- 13週目：サンプルデータを用いた統計解析の実際(1)～実験研究データの解析演習～
- 14週目：サンプルデータを用いた統計解析の実際(2)～調査研究データの解析演習～
- 15週目：データ解析総合演習
- 16週目：学期末試験 (or 学期末課題)

【履修上の注意事項】

- ・学期末課題は、学期末試験，または、学期末レポート課題を課す予定です。
- ・授業への積極的な参加を求めます。分からないことがあれば、遠慮せず質問して下さい。
- ・学部において、心理統計学または統計学に関する単位を修得済であることが望ましい。
- ・受講生の理解度に応じて、授業内容の変更・調整を行うこともあります。

【評価方法】

- ・成績評価は、出席状況30%，参加態度30%，学期末課題40%の内訳で、これらの総合評価です。ただし、いずれも6割以上の成績を残すことが単位認定の条件となります。
- ・授業への参加態度は、演習課題への取り組み状況を中心に評価します。
- ・学期末課題については、試験を実施する場合、参考書等の持込みを「可」として行う予定です。レポート課題を課す場合は、授業内で詳細を指示します。

【テキスト】

教科書は特に指定せず，毎回の配付資料を中心に講義を進める予定です。

【参考文献】

- 古谷野互 (1988). 数学が苦手な人のための多変量解析ガイド 川島書店
 小塩真司 (2005). 研究事例で学ぶSPSSとAMOSによる心理・調査データ解析 東京図書

心理療法特論

担当教員 野島 一彦

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

人格心理学特論

担当教員 針塚 進

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

臨床心理学的援助に不可欠な人間理解の基礎となるパーソナリティ理論について理解することを目的とする。さらに、授業の後半では、クライアントのパーソナリティ理解を含めた見立てと、それに応じた援助技法について習得する。

【授業の展開計画】

以下のテーマの順に講義を行い、その後受講者全員で議論する。

- 第1回 : 人格とは
- 第2回 : 人格研究の理論と方法①
- 第3回 : 人格研究の理論と方法②
- 第4回 : 人格の形成とその障害①
- 第5回 : 人格の形成とその障害②
- 第6回 : 高齢者の人格特徴と心理的援助①
- 第7回 : 高齢者の人格特徴と心理的援助②
- 第8回 : 統合失調症者の人格特徴と心理的援助①
- 第9回 : 統合失調症者の人格特徴と心理的援助②
- 第10回 : 障害児者の人格特徴と心理的援助①
- 第11回 : 障害児者の人格特徴と心理的援助②
- 第12回 : 心理的援助の実際①
- 第13回 : 心理的援助の実際②
- 第14回 : 心理的援助の実際③
- 第15回 : まとめ

【履修上の注意事項】

特性理論、精神力動論、人間学的理論、学習理論の基本的人格理論について各自復習しておくこと。

【評価方法】

出席および授業における議論への参加およびレポートを総合的に評価する。

【テキスト】

資料を配布する。

【参考文献】

適宜、紹介する。

精神医学特論

担当教員 井村 弘子

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

精神医学の歴史と現状、医学における位置づけと領域、精神疾患の基礎知識（疾患の歴史と概念、疫学、成因、症状と経過、診断と治療、予後等）について学び、精神医学的援助と臨床心理学的援助の比較、協働していくための要点を修得することを目的とする。

【授業の展開計画】

第1回	統合失調症（1）	第2回	統合失調症（2）	第3回	統合失調症（3）
第4回	気分障害（1）	第5回	気分障害（2）	第6回	気分障害（3）
第7回	発達障害（1）	第8回	発達障害（2）	第9回	発達障害（3）
第10回	思春期・青年期の精神障害	第11回	高齢者の精神障害		
第12回	不安障害	第13回	パーソナリティ障害		
第14回	アルコール問題と精神障害	第15回	ギャンブル問題と精神障害		
第16回	精神医学と臨床心理学との協働				

【履修上の注意事項】

各領域の専門講師（精神科医）によるオムニバス講義である。

【評価方法】

出席状況、講義への参加態度、学期末試験（レポート）等で評価する。

【テキスト】

講義資料は随時配布する。

【参考文献】

石丸昌彦・仙波純一著 「精神医学特論」 （財）放送大学教育振興会 ほか

地域ケア特論

担当教員 関原 宏昭

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義の到達目標およびテーマは以下の通りである。

- ①地域ケアシステムの内容を理解し、それを説明することができる。
- ②地域社会でおきる問題点は何かを把握することができる。
- ③地域社会の問題点解決の方策を論理立てて考え、主体的な行動につなげていくようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	地域保健福祉の今
2	地域保健・福祉・医療 場の変遷（日本・海外）
3	主体的な取り組み～意識づくり 1
4	主体的な取り組み～意識づくり 2
5	主体的な取り組み～人づくり 1
6	主体的な取り組み～人づくり 2
7	主体的な取り組み～プログラムづくり 1
8	主体的な取り組み～プログラムづくり 2
9	健康格差社会
10	新しい公共
11	地域のソーシャルキャピタルの可能性
12	地域のソーシャルネットワークの可能性
13	総合的な地域づくり 1～フィールドワークあり
14	総合的な地域づくり 2
15	総合的な地域づくり 3
16	

【履修上の注意事項】

一つひとつのテーマについて、意見交換（自分だったらどう思う）をしながら進めていく。

【評価方法】

- ①出席状況
- ②授業への参加（発言・レポート提出）状況
- ③①②を総合的に評価する

【テキスト】

【参考文献】

講義討論資料は、随時提供、紹介する。

投映法特論

担当教員 片本 恵利、稲田 梨沙

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義前半は、夢、描画、箱庭などさまざまな臨床場面における表現をめぐって、「投影」、「イメージ」について体験的に学んでいく。

後半は、投映法の中の一つである、ロールシャッハテストについてを取り上げる。全8回の中では、テスト結果を整理する方法を習得し、実際の活用例をみる。

【授業の展開計画】

- ① オリエンテーション～ 表現されたものから相手の世界を迫体験する
- ② イメージの展開① 夢分析①(フロイト、ユング)
- ③ イメージの展開② 夢分析② (沖縄のシャーマン (ユタ) のハンジ)
- ④ 描画テスト① バウムテスト体験
- ⑤ 描画テスト② バウムテストの解釈の基礎
- ⑥ 描画テスト③ LMT体験
- ⑦ 描画テスト④ LMT解釈の基礎
- ⑧ イメージの展開③ 箱庭療法
- ⑨ ロールシャッハテストとは
- ⑩ スコアリング①
- ⑪ スコアリング②
- ⑫ スコアリング③
- ⑬ 結果整理の仕方①
- ⑭ 結果整理の仕方②
- ⑮ 検査所見の書き方
- ⑯ テスト結果の活用例・まとめと振り返り

【履修上の注意事項】

指示された事前学習課題をクリアした学生のみ受講できる。

【評価方法】

発表、レポートなどから総合的に評価する。

【テキスト】

前半：適宜資料を配付するが、各自自習をしておくこと。

後半：小野和雄『ロールシャッハ・テスト その実施・解釈・臨床例』川島書店

【参考文献】

前半：ウルスラ・アヴェ＝ラルマン『バウムテスト 自己を語る木：その解釈と診断』

カレン・ボーランダー『樹木面によるパーソナリティの理解』 他詳細は事前課題とともに紹介する。

後半：片口安史『改訂 新・心理診断法』金子書房

人間福祉特殊研究 I

担当教員 トナルト クレイグ ウィルコックス

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本授業のねらいは以下のとおりとする。

1. 研究方法に関する理解
2. 各自の研究テーマの確定
3. 専攻研究まとめと研究の位置づけの明確化
4. 研究計画(調査方法・時期、分析方法など)の確定
5. 基礎調査等の実施

【授業の展開計画】

・授業と個別指導を取り混ぜながら行う。・前期では、研究の意味や基本的視点、研究に必要な情報検索・調査・分析に関する一般的な方法論、倫理等について再確認する。・論文購読、学会参加、実際の研究活動や発表に参加を通して研究活動についての理解を深める。・研究フィールドの確定と現場への参加を通して、実践例・事例等への接触と観察、基礎的な資料の作成を行う。・学会や研究会への参加を通して研究活動に取り組む。・講義終了までには、研究計画を完成させる。

<前期>

第 1 回：オリエンテーション

第 2 回：各自の研究テーマの紹介。

第 3 回：研究課題とフィールドの明確化。

第4～8 回：研究の意味と基本的視点、情報検索・調査・分析に関する一般的な方法論、倫理等について再確認

第 9 ～10回：検索、方法の実際、論文購読。個別指導。

第11～14：中間報告(1回目)個別発表、全体検討、課題の明確化、個別指導。

第15回：前期のまとめ。

夏季休暇中：学会参加を奨励。

<後期>

第16～18回：中間報告会(2回目)個別発表、全体検討、課題の明確化。

第19～24回：先行研究・個別研究指導。

第25～28回：中間報告会(3回目)個別発表、全体討議、課題の明確化。

第29～30回：まとめ、提出、報告。

【履修上の注意事項】

出席状況、講義への積極的な取り組み、提出物、課題など総合的に判断する。

【評価方法】

①出席、レポート提出。②クラス討論、授業内での発表。③研究テーマの確定および取組状況。④研究発表報告の内容と達成度。

出席およびレポート提出状況を重視する。

【テキスト】

沖縄で学ぶ 福祉老年学 (学文社) 金城 一雄・国吉 和子・山城 寛 編著 2009年

健康長寿の条件：元気な沖縄の高齢者たち (株式会社ワールドプランニング) 崎原 盛造・芳賀 博 2002年

その他、必要に応じて資料を配布。

【参考文献】

適宜、論文等を紹介する。

人間福祉特殊研究 I

担当教員 岩田 直子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

社会福祉学研究全体の動向を理解した上で、自身の関心分野の研究動向を確認する。
研究の進め方を理解し、研究計画を作成、検討する。
受講生の研究テーマに寄り添いながら主要参考文献を発表し、議論を深める。

【授業の展開計画】

<第1 Semester>

1. 社会福祉学研究の概要を理解する。
2. 研究の進め方を理解する。
3. 問題意識の整理、参考文献の収集とリストの作成
4. 主要参考文献を精読、発表する。
5. 夏季休暇中の研究計画とSemesterのまとめを提出

<第2 Semester>

1. 主要参考文献を精読、発表する
2. 研究計画に沿って調査を実施する。
3. 春季休暇中の研究計画とSemesterのまとめを提出

<第3 Semester>

1. 調査の結果に関する考察
2. 論文構成の吟味
3. 中間発表の準備
4. 夏季休暇中の研究計画とSemesterのまとめを提出

<第4 Semester>

1. 内容の独創性・研究目的との整合性の検討
2. 文献読解・調査手法などの妥当性の点検
3. 論文まとめ
4. 最終試験・最終発表会の準備

【履修上の注意事項】

受講生には、授業に主体的にかつ積極的に参加することを期待する。

【評価方法】

演習への主体的参加の状況。
その他

【テキスト】

なし

【参考文献】

随時紹介する。

人間福祉特殊研究 I

担当教員 保良 昌徳

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講のねらいは以下の通りとする。

- ① 各自の研究テーマについて明確にする。
- ② 先行研究を収集・精読し、現状の研究の状況や到達点等を明確にする。
- ③ 研究の現状等の中で、自らの研究を位置づけ明確にする。
- ④ 量的研究・質的研究等、また信頼性・妥当性等について十分理解する。
- ⑤ 以下、各自の進捗状況に応じて、研究計画の作成等に取り組む。

【授業の展開計画】

第1週	講義の概要説明	第17週	進捗状況の報告・検証
第2週	学術研究・方法論等に関する理解	第18週	研究の位置づけの再確認
第3週	研究計画素案の提出・検討	第19週	研究計画の再検証
第4週	論文購読（量的）からの理解①	第20週	調査計画の再検証
第5週	論文購読（質的）からの理解②	第21回	論文の形式等に関する確認
第6週	研究計画素案の検討	第22回	図表・引用等に関わる確認
第7週	調査と信頼性・妥当性	第23回	グループ討論・個別指導
第8週	検索方法の理解（図書館オリエンテーション）	第24回	グループ討論・個別指導
第9週	研究計画素案の検討①	第25回	研究活動の中間評価（領域合同）
第10週	研究計画素案の検討②	第26回	個別指導
第11週	研究の中間評価（領域合同）	第27回	個別指導
第12週	中間評価を受けての検討①	第28回	研究活動報告（領域合同）
第13週	中間評価を受けての検討②	第29回	個別指導
第14週	研究計画の再提出	第30回	中間報告書の提出・検討
第15週	研究計画の検討	第31回	個別指導
第16週	中間報告会	第32回	中間報告会

【履修上の注意事項】

履修者は以下の点について心がけること

- ① 自らの専門領域に関連する研究論文や研究者等に常に着目し動向の把握に努めること。
- ② 指摘事項等に対しては真摯に耳を傾け、改善に努めること。
- ③ 可能な限り、関連学会等へ参加し、関連する研究や研究者との交流に努めること。
- ④ 中間報告等での評価によっては、単位を認めない場合もあるので、その旨心得ておくこと。

【評価方法】

本講の評価は、以下の項目をもって行う。

- ① 出席状況（学則に則る）
- ② 支持された報告書等の提出状況
- ③ 中間報告会での第三者評価

【テキスト】

必要に応じ、資料・コピー等を配信又は配布する

【参考文献】

適宜、紹介する。

人間福祉特殊研究 I

担当教員 安次富 郁哉

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本授業は、2年間で完成させなければならない修士論文執筆のための準備期間として位置づけ展開する。具体的な展開方法としては、①研究に対する意識を高める、②研究方法、特に量的調査研究方法の基礎を修得する。③論文執筆に必要な先行研究の検索と精読、④研究テーマの明確化、⑤研究プロトコルの策定、⑥プレ調査の実施と本調査計画の6点ある。

【授業の展開計画】

1週目	オリエンテーション
2週目－3週目	保健・医療・福祉領域における研究テーマの紹介
4週目－5週目	社会調査の概要：質的調査、量的調査 倫理と個人情報：学内倫理委員会 審査手続き等
6週目－7週目	研究に対する意識：学会参加（九州農村医学会予定）によって研究者としての意識を高める。
8週目－10週目	研究領域の決定とテーマ及び仮説の明確化、先行研究の探索 及び精読
11週目－15週目	修士論文執筆プロトコル検討及び夏季休暇中に研究対象フィールドの検討とプレ調査実施
16週目－20週目	修士論文執筆プロトコル決定、本調査計画（対象フィールド決定）、学内倫理委員会手続き
21週目－22週目	本調査実施計画① 対象フィールド踏査
23週目－30週目	本調査計画② 対象フィールドの特性を踏まえて調査計画を立案
31週目	口頭試験

【履修上の注意事項】

- ①課題については必ず提出すること。
- ②研究方法及びデータ分析（SPSS）については積極的に学習する。
- ③授業の討論には積極的に参加すること。

【評価方法】

出席・課題提出状況・口頭試験・討論への発言状況等を総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

- ①「道具としての統計学」ルイ・パストゥール医学研究センター・奥田千恵子著、金芳堂出版
- ②「SPSSで学ぶ統計分析入門」馬場浩也 東洋経済新報社
- ③その他の参考図書については、講義の中で随時紹介する

人間福祉特殊研究Ⅱ

担当教員 小柳 正弘

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

修士論文を作成し、完成させる。

【授業の展開計画】

第3semester

- ①基本文献の読解／本調査の結果に関する考察
- ②論文構成の吟味→論理的一貫性の検討
- ③論文概要の作成→修士論文中間発表の準備
- ④論文全体の草稿を作成

*夏季休暇中の研究計画とsemesterのまとめを提出

第4semester

- ①内容の独創性・論理的一貫性の再検討
- ②文献読解・調査手法などの妥当性の点検
- ③書式の点検
- ④論文の完成→最終試験・最終発表会の準備

【履修上の注意事項】

年度当初に前年度までの研究実績（論文、レポート、その他）のコピーを提出すること。

【評価方法】

授業への実質的なかわり、提出物の内容、発表会でのプレゼンテーションなどを総合的に評価する。

【テキスト】

なし。

【参考文献】

授業中に適宜、紹介する。

人間福祉特殊研究Ⅱ

担当教員 トナルト クレイグ ウィルコックス

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

特殊研究Ⅰでの成果を基本に、各自の専門領域の確定と研究者としての自覚・技術を養いながら、理論・仮説の点検、調査実施方法の準備を行う。そして、調査実施・調査結果の整理等を行いながら、研究の精度を高め修士論文の完成を目指す。修士論文完成後の発表会においては、学会発表の行い方についても学ぶ。一連の作業過程を通して研究者としての基礎を築いていく。

【授業の展開計画】

- 1 クラスでの報告、全体討論、個別指導を通して研究の指導を行う。
- 2 調査方法を確立し、調査資料の整理方法、統計資料としての処理方法等も進める。
- 3 調査を実施し、資料の処理を行う。
- 4 修士論文の作成を開始し、11月末前には修士論文の素案を提出。最終指導を開始する。
- 5 学会発表形式に準じた発表の方法・内容について学ぶ。

第1回：講義の進め方に関する説明

第2回～5回：中間報告会①（研究活動の報告と討論、研究の進め方の指導）

第6回～11回：論文の構成・作成手順等の再確認。

調査における信頼性妥当性への配慮、分析方法への再確認を行う。

第12回～14回：中間報告会②（調査日程、分析方法）

第15回：前期のまとめ

第16回：後期の進め方に関する説明

第17回～26回：修士論文の提出へ向けて論文作成指導

第27回～30回：修士論文発表へ向けての指導

【履修上の注意事項】

参考文献や資料等は、積極的に収集・読解・整理しておくこと。

講義中は積極的に発言や討論に参加すること。

【評価方法】

出席・レポート・受講態度（質疑など）・修士論文などを総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定はない。必要であれば指示をする。

【参考文献】

必要に応じて指示をする。

人間福祉特論

担当教員 小柳 正弘

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業は、テキストの批判的読解と受講者の議論により、人間と福祉とのかかわりについて原理的な考察をおこなうものである。

【授業の展開計画】

□授業は以下のような段取りでおこなう。

- ・文献について受講者が交替で分担してレジュメ（A4、1～2枚、40字×30行）をつくり、概要を報告する。
- ・報告担当者以外の受講者は批判的コメント（A4、1枚、40字×10行程度）を準備する。
- ・概要とコメントふまえて全員で議論する。

□長友敬一『現代の倫理的問題』（ナカニシヤ出版）の基礎理論の部分と熊野純彦他「ケアと自己決定」（東大21世紀COE死生学プロジェクト）を基本文献とする。

□レジュメの作成方法については、最初に全員が同一の文献で演習する。

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

報告、レジュメ、コメント、議論への貢献などを総合的に評価する。

【テキスト】

長友敬一『現代の倫理的問題』ナカニシヤ出版

熊野純彦他「ケアと自己決定」（東大21世紀COE死生学プロジェクト）はコピーをとる。

【参考文献】

授業中に、適宜、紹介する。

認知心理学特論

担当教員 前堂 志乃

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

認知心理学の主要なテーマである、知覚、思考、言語、記憶、学習、情動、注意と意識、認知の障害などについての知見や理論を学習する。また、認知心理学や認知科学の分野で蓄積されてきた脳とこころの働きを研究するための研究法、測定法についても学習する。文献の講読や対話を通じて「日常の中の認知的活動」と「脳と認知的活動」の2つの視点を意識しながら学習内容を統合していく。最終的に、認知心理学的視座から、ひと（自己と他者）の認知のあり方を理解する力を高めていくことをめざす。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・認知心理学とは
2	自己の認知活動について意識する①
3	自己の認知活動について意識する②
4	認知過程：視覚
5	認知過程：聴覚（言語と音楽）
6	認知過程：意識
7	認知過程：記憶と知識
8	認知過程：会話
9	認知過程：読む、書く
10	認知過程：思考と問題解決
11	認知過程：モノのデザイン
12	認知過程：メタ認知
13	認知過程：感情と認知
14	認知過程：動物の認知行動
15	認知過程：認知過程と脳機能・認知心理学の研究手法
16	

【履修上の注意事項】

- ・自分自身の感覚・知覚・認知の過程を観察（内省的に）し、学習内容、対話、参考文献の内容と照らし合わせながら、主体的に体験的に学んで欲しい。
- ・講義の中での対話（ダイアログ）の機会がお互いの気づきにつながるよう、多様な意見への傾聴と活発な発言とを期待する。

【評価方法】

- ・講義、ワーク、対話への参加、課題（ワークシート、期末課題など）、課題を取り纏めたポートフォリオなど、を総合して評価する。

【テキスト】

- ・初回の講義で紹介する。テキストを購入し講義時には持参することが望ましい。

【参考文献】

- ・講義の中で適宜紹介する。

犯罪心理学特論

担当教員 山入端 津由

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

非行・犯罪のある者に対する的確な鑑別診断技法の学習及び心理教育・臨床心理学的援助技法の習得を目指す。

【授業の展開計画】

- 1 非行・犯罪を理解する基礎を学ぶ
- 2 非行・犯罪理論と非行・犯罪臨床
- 3 社会と個人の相互作用過程と非行・犯罪
- 4 非行・犯罪臨床と刑事政策
- 5 資質鑑別事例研究1（財産犯・経済犯罪）
- 6 資質鑑別事例研究2（暴力犯罪）
- 7 資質鑑別事例研究3（性暴力犯罪）
- 8 資質鑑別事例研究4（犯罪深度・要保護性）
- 9 資質鑑別事例研究5（異常心理学と犯罪・精神鑑定）
- 10 非行・犯罪とカウンセリング
- 11 非行・犯罪のある人への心理教育及び心理臨床的援助法
- 12 薬物依存症者に対する集団精神療法
- 13 非行・犯罪臨床と被害者支援
- 14 非行・犯罪臨床と犯罪報道
- 15 まとめ
- 16 テスト

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

出席、レポート内容、授業での発言・発表内容等を総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

- ①犯罪心理学（大淵憲一・培風館）
- ②図解雑学 犯罪心理学（細江達郎・ナツメ社）

保健医療政策特論

担当教員 安次富 郁哉

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

本講義のねらいは2点である。①我が国における医療政策、保健政策の現状を理解し、問題点、今後の課題を探究する。②我が国の医療提供構造を理解する。特に、病院完結型医療から地域完結型医療への推進による「地域連携」のあり方について理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	前期オリエンテーション（計画・調整）	17	後期オリエンテーション（計画・調整）
2	我が国の医療の現状①医療資源（全般）	18	医療提供構造①：平均在院日数短縮化
3	医療資源関連論文抄読（医療全般）	19	医療提供構造②：急性期型病院
4	我が国の医療の現状②医療資源：人	20	医療提供構造③：クリティカルパス
5	医療資源関連論文抄読（医療従事者）	21	医療提供構造③：医療連携（病・病）
6	我が国の医療の現状③医療資源：物	22	医療提供構造④：医療連携（病・診）
7	医療資源関連論文抄読（医療施設）	23	医療提供構造⑤：医療連携（モール）
8	我が国の医療の現状④医療資源：財	24	医療提供構造が変わる！？
9	医療資源関連論文抄読（医療施設）	25	地域医療計画①概論
10	診療報酬・・・出来高から包括へ	26	地域医療計画②沖縄県
11	DPC①制度導入経緯	27	地域連携：医療の出口に福祉あり
12	DPC②DPCとは	28	病院完結型医療から地域完結型医療へ
13	DPC③DPCとは	29	クリティカルパス①：院内パス
14	DPC制度を巡る問題及び課題	30	クリティカルパス②：地域連携パス
15	DPC制度を巡る問題及び課題	31	振り返り
16	前期振り返り		

【履修上の注意事項】

医療提供構造に関心をもち、新聞、文献等を精読すること。また、講義形式ではあるが討論を中心とするため積極的に参加すること。

【評価方法】

出席状況、課題提出、討論への参加について総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。その都度資料を配布する。

【参考文献】

「日本医事新法」（研究室定期購読）、「病院」（図書館所蔵雑誌）、厚生労働白書、国民衛生の動向など医療関連雑誌・図書等

ホスピスケア特論

担当教員 上間 一

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義の到達目標およびテーマは以下の通りである。

- ① 「ホスピス」を理解し、それを説明することができる。
- ② 臨死患者に対する心身両面からのケアを考えることができ、実践することができる。
- ③ 「ホスピスケア」のあり方を理解し、また、チームケアの重要性を説明することができる。
- ④ ホスピスケアに重要なコミュニケーションスキルを実践する

【授業の展開計画】

【授業の概要】

死に直面する患者への「ケア」をめぐる問題については、「延命治療」「安楽死」「緩和ケア」などといった多くの議論がなされている。本講義ではターミナルケアを必要とする患者およびその家族の心のケアに焦点をあて、ターミナルケアを必要とする患者・家族にとって今必要とする心身両面からの「ケア」について論及する。また、ホスピスケアチームのあり方、ホスピスにおけるコミュニケーションスキルについても実践的な講義を展開する。

第1回：オリエンテーション

第2回～第15回

- 1) ホスピス講座テキストに添って講義を展開する。
- 2) ホスピスチームケアの実践
- 3) 受講生分担で学術雑誌、ホスピス関連図書等に掲載されたホスピスケアを中心とした掲載論文を精読し、討論する。

【履修上の注意事項】

特になし。

【評価方法】

- ①出席状況
- ②授業への参加（発言・レポート提出）状況
- ③①②を総合的に評価する

【テキスト】

【参考文献】

- ①「ホスピス講座」新星出版
- ②その他参考資料として、講義時間に随時紹介する。

臨床心理学特殊研究 I A

担当教員 上田 幸彦

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

修士論文を書くことで、臨床における科学的見方を身につけ、将来の科学者－実践家モデルとなる下地を作ることのねらいとする。2年間で修士論文を書き上げるためには、1年時は準備期間となるが、この1年間で、臨床心理学における研究領域と研究方法、テーマ設定、仮説構築と検証方法、データ収集の方法、研究における倫理的配慮、統計的技法の選択、文献検索の方法、科学論文の書き方を習熟しておくことが必要である。各自の発表と全員でのディスカッションを通して、各自の中にあるアイデアを具体的で実現可能な、かつ臨床的に意義のある研究テーマとして固めていくことを学ぶ。

【授業の展開計画】

前期ではまず、各自の卒業論文の概要と関心のある領域・テーマについて発表・ディスカッションを行いながら、関心のある研究領域の拡大を行う。

次にその中から各自のテーマに関連する論文を読み、論点を整理し発表する。これを繰り返しながら各自の研究テーマと研究目的を絞り込んでいく。

後期において、研究目的を達成するための方法論の検討を行い、研究計画を立てる。

【履修上の注意事項】

他者の発表を聞き討議することは、アイデアを生み出し、自らの考え明確にし、そして批判的思考を養うために不可欠である。そこですべての授業に出席することが前提である。また一斉指導のときに各自が十分な発表が行えるように個別指導は随時行う。2年時に入ってからすぐにデータ収集ができるために、1年時に授業時間外での文献研究、発表準備に十分時間をかけることが必要となる。英語の文献を速く多量に読む力が要求される。また2年時にデータ収集・修士論文作成に没頭できるように、1年時から体制を整え始めることが必要である。

【評価方法】

毎回の発表の内容と、取り組みの積極性、討議での積極性によって総合的に評価する。

【テキスト】

【参考文献】

臨床心理学の研究の技法 下山晴彦 編 (福村出版)

臨床心理学特殊研究 I B

担当教員 山入端 津由

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

「実証に基づく臨床心理学」の考え方の基に、臨床実践における科学的思考の訓練が重視されている。臨床心理士となるためには、こうした科学者—実践家モデルを身につけることが強く要請される。このための教育のひとつとして、科学性のある心理学研究論文としての修士論文の作成課題が準備されている。これは2年間で完成することになっている。1年目は、文献調査を通して、臨床心理学の理論、関連領域、研究方法等を学ぶ。また、研究テーマの設定、仮説の構築、検証方法と資料収集、統計技法の習得、研究における倫理的配慮など、科学的論文の書き方を習得する。

【授業の展開計画】

- (1) 臨床社会心理学関連やポジティブ心理学関連の分野を可能な限り学ぶ
- (2) 各自、関心のある臨床心理学の理論や関連分野について発表し、集団討議を通して、理解を深める。
- (3) 各自の関心のあるテーマを絞込み、関連する先行研究文献を熟読し、論点を整理する。
- (4) 研究計画を立てる。

【履修上の注意事項】

一斉指導と個別指導を併用する。一斉指導への参加は、互いの理論、研究方法の理解を深めるための学習の場として、また、集団討議に慣れるとか、批判的思考を培う場として有用であるので、すべての授業に出席することが前提である。2年目にリサーチ等、修士論文作成が効率よくできるように体制を整えることに留意したい。

【評価方法】

発表内容、取り組みの姿勢と課題処理の進捗状況、討議行動など、総合的に評価する。

【テキスト】**【参考文献】**

適宜、紹介する。

臨床心理学特殊研究 I B

担当教員 井村 弘子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

臨床心理学研究の基礎理論・研究方法等について学びながら、各自の研究テーマを設定し、修士論文作成に向けた具体的な研究計画を立て、研究に着手することを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション	17	研究デザイン発表 (1)
2	臨床心理学研究概論 (1)	18	研究デザイン発表 (2)
3	臨床心理学研究概論 (2)	19	研究デザイン発表 (3)
4	臨床心理学研究概論 (3)	20	集団討議 (4)
5	臨床心理学研究方法論 (1)	21	集団討議 (5)
6	臨床心理学研究方法論 (2)	22	集団討議 (6)
7	臨床心理学研究方法論 (3)	23	研究方法発表 (1)
8	研究テーマ発表 (1)	24	研究方法発表 (2)
9	研究テーマ発表 (2)	25	研究方法発表 (3)
10	研究テーマ発表 (3)	26	集団討議 (7)
11	研究文献発表 (1)	27	集団討議 (8)
12	研究文献発表 (2)	28	修士論文構想発表 (1)
13	研究文献発表 (3)	29	修士論文構想発表 (2)
14	集団討議 (1)	30	修士論文構想発表 (3)
15	集団討議 (2)	31	まとめ
16	集団討議 (3)		

【履修上の注意事項】

各自の研究計画の進行状況に沿って、随時個別指導と併用して行う。

【評価方法】

発表内容、研究進行状況、討議参加への姿勢や発言などを総合的に評価する。

【テキスト】

特に定めないが、各自の研究テーマにふさわしいものを随時紹介する。

【参考文献】

随時紹介する。

臨床心理学特殊研究ⅡA

担当教員 上田 幸彦

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

この1年間で修士論文を完成させることを通して、データ収集法、データ収集にける倫理的配慮、データ整理、統計的手法、論文執筆における科学論文の構成、引用の仕方、をマスターする。
修士論文完成後の発表会の前には、リハーサルを行い、プレゼンテーションの仕方、学会発表の仕方を身につけることをねらいとする。
論文完成・発表をとおして臨床心理学における研究の意義を体得することが最大のねらいである。

【授業の展開計画】

1年時に作成した研究計画(中間報告1)に基づき予備調査を行い、その結果を報告し(中間報告2)、本調査を前にして研究計画の問題点・修正点を明らかにし。修正する。
また夏休み前に、データ収集のフィールドとの調整、被験者との調整を終らせておく。
夏休みに入ったらすぐにデータ収集に取りかかる。またデータ収集と同時に可能な部分からデータ整理を開始する。収集されたデータに基づき、必要な統計的検定を行い、結果の整理を行う。
11月末をめどに、目的・方法・結果の下書きを完成させ、報告する(中間報告3)。それに基づき討議する。
討議をもとに修士論文を完成させる。
修士論文完成後、スライドあるいはポスター作成を行い、学会形式での予演(報告4)を行う

【履修上の注意事項】

他者の発表に対して研究的視点から積極的な批評を行うこと。毎回の中間報告に十分な発表ができるためには、授業以外の時間をいかに効率よく使うかがカギとなる。
随時、個別指導を行う。修士論文完成には、膨大な時間とエネルギーが必要である。この1年間、生活の第一優先事として取り組み続けられるように体調管理、スケジュール管理を徹底して行うことが求められる。

【評価方法】

提出された論文の内容と作成過程での取り組みの姿勢等から総合的に評価する。

【テキスト】

【参考文献】

APA論文作成マニュアル アメリカ心理学会著 江藤裕之他訳 医学書院

臨床心理学特殊研究ⅡB

担当教員 山入端 津由

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

臨床心理学特殊研究ⅠBで準備したことに基づき、理論・仮設の点検、調査実施方法の準備、そして、調査実施を行い、調査結果の整理等を経て修士論文の作成に取り組む。論文執筆過程において、科学論文の作成方法を体験的に学ぶ。また、修士論文完成後の発表会を通して、プレゼンテーションの仕方についても学ぶ。こうした一連の作業過程を通して、科学者－実践家モデルの基礎を築く。

【授業の展開計画】

- (1) 研究実施計画の再点検を行う。先行研究の整理、仮設、検証方法等について、現実課題に沿っているかどうかのチェックを行う。その結果について中間発表を行う。
- (2) 調査方法を確立し、作成・準備を行う。つまり、予備調査、本調査形式をとるか、あるいは一時調査、二次調査という形式で行うかなど。その時点で調査資料の整理方法、統計資料としての処理法などもはっきりさせておく。
- (3) 調査を実施し、資料の処理を行う。
- (4) 修士論文の作成に着手する。仮説検証、先行研究の流れにおいて、調査結果の有する意味を明確にしながらか、討議をきちんと書きあげ、修士論文を完成させる。
- (5) 完成後、スライドやパワーポイント等を用いた発表の準備、リハーサル等を行う。
- (6) 学会形式のような発表を行う。

【履修上の注意事項】

中間発表や共同で討議を行う場合は、積極的に研究的支店から討議意見を述べるようにする。すなわち、研究上の批評ができるスキルを学ぶようにある。個別指導の機会を有効に活用できるように毎日の生活時間の管理をきちんとしておく。

【評価方法】

提出された修士論文について、主査と副査を中心に査読と口頭試問を行い、その結果を成績に反映させる。

【テキスト】

【参考文献】

適宜、紹介する。

臨床心理学特殊研究ⅡB

担当教員 井村 弘子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

臨床心理学特論 I

担当教員 井村 弘子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

臨床心理士を目指す学生の土台となる講義であり、臨床心理学の定義や歴史、日本・諸外国における臨床心理士資格制度、臨床心理学に基づく人間理解・援助の方法、さらに、今後の展望や倫理問題などについて学ぶ。

【授業の展開計画】

- 第1回～第2回 : 臨床心理学の定義と独自性
- 第3回～第4回 : 臨床心理学の歴史と成立
- 第5回～第6回 : 臨床心理士の養成と課題
- 第7回～第8回 : 臨床心理学における人間理解の方法
- 第9回～第10回 : 臨床心理学に基づく援助の方法
- 第11回～第12回 : 臨床心理学に基づく実践活動・研究活動・専門活動
- 第13回～第14回 : 臨床心理士の職業倫理
- 第15回～第16回 : 臨床心理学の課題と展望

【履修上の注意事項】

学部における基礎的な臨床心理学の知識・技能を持っていることを前提に講義を進める。あらかじめ文献を調べた上で講義に臨み、討論には積極的に参加すること。

【評価方法】

出席状況、討論への参加態度や発言内容、提出されたレポート等から総合的に評価する。

【テキスト】

下山晴彦（著）「これからの臨床心理学」東京大学出版会

【参考文献】

大塚義孝（編）臨床心理学全書1「臨床心理学原論」 誠信書房
下山晴彦・丹野義彦（編）講座臨床心理学1「臨床心理学とは何か」東京大学出版会

臨床心理学特論Ⅱ

担当教員 山入端 津由

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

非行や犯罪のある人に対する、臨床心理面接と心理テストを用いたアセスメントによる資質鑑別について、事例資料を検討しながら学ぶ。また、心理鑑定や精神鑑定についても言及する。さらにこれらに基づいて臨床心理学的、教育的支援について検討する。

【授業の展開計画】

- 1 犯罪や非行のある人に対する資質鑑別
- 2 同資質鑑別で援用されている背景理論
- 3 資質鑑別のための言語面接法
- 4 発達軸と相互作用軸によるライフヒストリーの記述と分析法
- 5 同資質鑑別と行動観察
- 6 行動観察法—自由観察と操作的観察
- 7 心理アセスメント
- 8 心理テストとテストバッテリー
- 9 非行種別における資質鑑別
- 10 身体暴力と性暴力犯罪の資質鑑別
- 11 経済犯罪、ホワイトカラー犯罪と資質鑑別
- 12 薬物犯罪と資質鑑別
- 13 犯罪・非行と心理臨床的援助
- 14 精神鑑定
- 15 犯罪と異常心理
- 16 テスト

【履修上の注意事項】

非行・犯罪心理学の基礎知識が必要である。

【評価方法】

出席、受講態度、報告内容、討議での発言回数と内容等について総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

適宜、紹介する。

臨床心理基礎実習

担当教員 山入端 津由 ・ 平山 篤史

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 実験実習

単位数 4

【授業のねらい】

学内外での臨床心理実習を行う為に必要となる、心理臨床の倫理や、臨床心理面接、臨床心理査定などの基礎的知識と基礎的技術の習得を目的とする。ロールプレイング、ディスカッションを通して体験的に学習する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	前期オリエンテーション	17	後期オリエンテーション
2	心理臨床実践の基本事項①	18	学外基礎実習の報告①
3	心理臨床実践の基本事項②	19	学外基礎実習の報告②
4	心理臨床実践の基本事項③	20	心理臨床面接のロールプレイ①
5	心理臨床の面接の基本的態度	21	心理臨床面接のロールプレイ②
6	心理臨床面接の応答技法①	22	プレイセラピーと箱庭療法について
7	心理臨床面接の応答技法②	23	プレイセラピーのロールプレイ①
8	心理臨床面接の応答技法③	24	プレイセラピーのロールプレイ②
9	応答技法のロールプレイ	25	心理検査について
10	インテーク面接について①	26	心理検査のロールプレイ①
11	インテーク面接について②	27	心理検査のロールプレイ②
12	インテーク面接ロールプレイ①	28	面接の技法①
13	インテーク面接ロールプレイ②	29	面接の技法②
14	学外基礎実習についてのオリエンテーション	30	面接の技法③
15	インテークの記録と報告①	31	まとめ
16	インテークの記録と報告②		

【履修上の注意事項】

修士1年次を対象とする。

臨床活動に直接関係する内容であるので、主体的、積極的に取り組むこと。

8～9月に3～5日の学外実習を行う。

【評価方法】

実習への出席や態度、提出物、学外の実習評価などを総合的に見て評価する。

【テキスト】

適宜紹介する

【参考文献】

適宜紹介する

臨床心理査定演習 I

担当教員 上田 幸彦

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

最近日本においても、臨床心理士に求められることが多くなっている神経心理学的検査法について学んでいく。特に神経心理学的検査が必要とされる高次脳機能障害に対する基本的な神経心理学検査バッテリーを実施し、それらの結果から援助に役に立つ所見を書けるようになることを目指す。これを基本として認知症高齢者、統合失調症、自閉症などの発達障害児に対しても神経心理学的所見に基づいた援助ができる力を養っていく。また検査結果から妥当な結論を導き出すためには、人間の認知機能についての理解が不可欠である。この領域は昨今新しい知見が集積されている。基礎的な知識から最新の情報までについても学んでいく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	神経心理学査定概論
2	認知機能概論①
3	認知機能概論②
4	認知機能概論③
5	認知機能概論④
6	WAIS-III①
7	WAIS-III②
8	WAIS-III③ プロフィール分析、結果の解釈と所見の書き方
9	WMS-R①
10	WMS-R②
11	リーバ-ミード行動記憶検査
12	注意機能検査①：TMT
13	注意機能検査②：PASAT
14	遂行機能検査 ウィスコンシンカードソーティングテスト
15	神経心理学的報告書の書き方
16	

【履修上の注意事項】

WAIS-Rの基本的な施行法は身につけていることを前提に授業を進める。授業は全体を通して漸次展開していく。途中を欠席するとその後の理解に支障を生じるため、全回出席が原則である。互いに検査者・被検査者となつての実習、講義以外の時間でのデータ収集も行うので主体的な受講態度が求められる。

【評価方法】

授業への出席状況とレポートによって評価する

【テキスト】

神経心理学的検査集成 レザック, M. D. 鹿島晴雄監修 創造出版

【参考文献】

臨床心理査定演習Ⅱ

担当教員 井村 弘子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

臨床場面において用いられることの多い心理検査を取り上げ、検査の適切な実施法、結果の整理法、解釈の基本的な考え方について体験的に学習した上で、検査報告書の書き方、テストバッテリーの組み方、心理的援助に結びつく総合所見の書き方などを身につけることを目的とする。

【授業の展開計画】

- 第1回：臨床心理査定概論
- 第2回：質問紙法の実施と解釈
- 第3回：作業検査法の実施と解釈
- 第4回～第7回：投映法検査の実施と解釈Ⅰ（ロールシャッハ法）
- 第8回～第10回：投映法検査の実施と解釈Ⅱ（TAT）
- 第11回～第12回：投映法検査の実施と解釈Ⅲ（SCT、描画ほか）
- 第13回～第14回：検査報告書の書き方
- 第15回～第16回：テストバッテリーの組み方と総合所見の書き方

【履修上の注意事項】

演習の一環として、事前に必ずテスト体験をし、データを手元に用意した上で、各検査について、検査の成り立ち、目的、構成、手順、測定方法等について各自整理しておくこと。

【評価方法】

発表、討論への参加態度、提出されたレポート等から総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。随時必要な資料を配布する。

【参考文献】

- 竹内健児（編）「心理検査の伝え方・活かし方」金剛出版
- 日本臨床心理士会「臨床心理士の基礎研修」創元社
- 上里一郎（監修）「心理アセスメントハンドブック」西村書店

臨床心理実習

担当教員 上田 幸彦・井村 弘子

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 実験実習

単位数 4

【授業のねらい】

本実習では、臨床心理学基礎実習の学習成果をふまえ、学内外での心理臨床活動の実際に触れながら、地域に根ざした心理臨床活動を展開するために必要な実践的知識や技法の習得をめざす。

【授業の展開計画】

1回～第4回：臨床心理基礎実習で修得した面接技法などについて演習などを通して確認し、学外施設での実習に向けた演習を行う。

第5回～第15回：学外施設での実習成果をふまえ、実際の臨床場面の問題や課題について事例をもとに検討する。

第16回～第17回：前期の実習を振り返り、後期の実習課題を検討する。

第18回～第19回：実施施設担当者による「心理臨床の現場における臨床心理士の役割と活動」に関する講義

第20回～第30回：個別の事例について検討を行い、問題点を探ると同時に、より適切な対応について検討する。

【履修上の注意事項】

学外施設の実習では、社会常識としての基本的な挨拶、振る舞い、ことば遣いや服装に十分気をつけること。またクライアントとの対応については、施設における実習担当者に相談し、クライアントに対して適切な対応を常に配慮すること。

【評価方法】

学外施設における実習評価および授業時に提出されたレポートにより評価する。

【テキスト】

【参考文献】

授業において、随時紹介する。

臨床心理事例検討実習 A

担当教員 上田 幸彦・前堂 志乃・平山 篤史・井村 弘子・山入端 津由

対象学年 1年

開講時期 通年

単位区分 選択

授業形態 実験実習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

心理臨床では、基本的・一般的な理論・技法を学ぶことは大切なことであるが、それだけでは十分に役立つ援助を提供することはできない。心理的問題を抱える人の環境、歴史、特性は様々であり、その個別性に応じた援助が求められるからである。来談者の個別性を理解し、その人への適切な援助を柔軟に展開するためには、一つ一つの事例を様々な視点から検討することが不可欠である。この授業を臨床心理学領域の教員全員が担当する意義はここにある。この実習では心理相談室の事例の検討を通じて諸技法の適用する力を高めることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	事例検討①
3	事例検討②
4	事例検討③
5	事例検討④
6	事例検討⑤
7	事例検討⑥
8	事例検討⑦
9	事例検討⑧
10	事例検討⑨
11	事例検討⑩
12	事例検討⑪
13	事例検討⑫
14	事例検討⑬
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

心理相談室の実際の事例を検討する形式を取るため、心理臨床の専門家としての倫理を遵守し、責任ある態度で履修すること。事例検討A・Bは隔年開講とする。

【評価方法】

心理相談室で担当した事例を発表することが単位認定の条件となる（2年で3ケース以上を担当することがのぞましい。）

授業態度、事例報告および報告に対するコメントなどの総合的に判断し評価する。

【テキスト】

【参考文献】

適宜紹介する。

臨床心理事例検討実習 B

担当教員 山入端、上田、井村、前堂、泊、平山

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 実験実習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

心理臨床では、基本的・一般的な理論・技法を学ぶことは大切なことであるが、それだけでは十分に役立つ援助を提供することはできない。心理的問題を抱える人の環境、歴史、特性は様々であり、その個別性に応じた援助が求められるからである。来談者の個別性を理解し、その人への適切な援助を柔軟に展開するためには、一つ一つの事例を様々な視点から検討することが不可欠である。この授業を臨床心理学領域の教員全員が担当する意義はここにある。この実習では心理相談室の事例の検討を通じて諸技法の適用する力を高めることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	事例検討①
3	事例検討②
4	事例検討③
5	事例検討④
6	事例検討⑤
7	事例検討⑥
8	事例検討⑦
9	事例検討⑧
10	事例検討⑨
11	事例検討⑩
12	事例検討⑪
13	事例検討⑫
14	事例検討⑬
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

心理相談室の実際の事例を検討する形式を取るため、心理臨床の専門家としての倫理を遵守し、責任ある態度で履修すること。事例検討A・Bは隔年開講とする。

【評価方法】

心理相談室で担当した事例を発表することが単位認定の条件となる（2年で3ケース以上を担当することがのぞましい。）

授業態度、事例報告および報告に対するコメントなどの総合的に判断し評価する。

【テキスト】

【参考文献】

適宜紹介する。

臨床心理面接特論 I

担当教員 山入端 津由

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

臨床心理面接法について、児童期・思春期・青年期面接（いずれも、障がい児者、被虐待児者を含む）、境界例面接、親面接、集団面接、病苦の人々やターミナルケア中の人々の面接等、多様なクライアントに対する面接技能を学び、深める。また、クライアント・治療者関係の理解及びクライアントの理解に係る理論（人間モデル）についても言及する。さらにこれらの過程を通して心理療法家としての自覚を深める。

【授業の展開計画】

- 1～5 クライエントの理解モデルとアプローチ
- 6 児童期・思春期・青年期面接（いずれも、障がい児者、被虐待児者を含む）
- 7 境界例面接
- 8 親の面接
- 9 集団面接
- 10 病苦の人々の面接
- 11 ターミナルケア中の人々の面接
- 12 面接における傾聴とことば
- 13 臨床面接学の検討
- 14 妄想のある人の面接法について
- 15 総括とまとめ
- 16 テスト

【履修上の注意事項】

受講生にクライアントの理解モデルについてまとめたのを報告してもらう。

【評価方法】

出席、受講態度、報告内容、討議での発言回数と内容等について総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

適宜紹介する。

臨床心理面接特論Ⅱ

担当教員 上田 幸彦

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

近年世界的に最も用いられることが多い認知行動療法に関わる面接技法を中心に学習する。また精神分析的アプローチ、クライエント中心療法などの各派との違いと各派に共通するものを探り、最近の流れである心理療法の統合について理解していく。

最終的に目指すことは、将来出会うであろう様々なクライエントに対して、最も有効なアプローチ法を見出し、していく力を高めることである。

【授業の展開計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 認知行動療法の基礎としての学習・問題行動・不適応行動
- 第3回 行動療法の主な技法：系統的脱感作、暴露反応妨害法、
- 第4回 応用行動分析
- 第5回 認知的アプローチ
- 第6回 認知行動的アプローチ基礎理論
- 第7回～第8回 認知行動療法の実際：抑うつ認知行動療法
- 第9回～第12回 他のアプローチとの比較、
- 第13回 心理療法の統合、多理論統合モデル
- 第14回～第15回 高次脳機能障害に対するアプローチ

【履修上の注意事項】

授業は全体を通して漸次展開していく。したがって欠席するとその後の授業の理解に支障が生じる。全回出席が前提である。各自が積極的に関連する文献を読み、発表することが求められる。

【評価方法】

【テキスト】

心理療法の諸システム 多理論統合的分析 プロチャスカ著 津田彰他監訳 金子書房

【参考文献】

老年健康科学特論

担当教員 トナルト クレイグ ウィルコックス

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

本授業は、健康・疾病および加齢に関する項目について学ぶことを目的とする。健康管理システムにおけるソーシャルワークの役割、健康と加齢に関する社会的要因、高齢者がもたらす社会経済的影響に対する政策について学ぶ。主に、健康増進とリスク除去の方策のほか、健康維持アプローチと高齢者特有の健康問題にも焦点を当てる。授業で扱うテーマとして以下5点を設定する。

【授業の展開計画】

1. 高齢者の健康について基礎概念
2. 健康と老いに対するソーシャルワークの役割
3. 高齢者が直面している健康問題
4. 高齢者に対する健康政策と支援および計画
5. 健康長寿と加齢についての国際的研究

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	前期オリエンテーション	17	文化および民族と健康
2	健康長寿(Healthy Aging)の定義	18	世界の社会的弱者の健康について
3	健康長寿とソーシャルワーク	19	高齢者の健康政策のマクロ的影響
4	地域における保健活動と健康長寿	20	沖縄における長寿の課題 1
5	高齢者の健康に関わる社会的要因	21	沖縄における長寿の課題 2
6	高齢者の疾病について	22	沖縄における長寿の課題 3
7	加齢に伴う身体的健康問題	23	沖縄における長寿の課題 4
8	加齢に伴う精神的健康問題	24	沖縄における長寿の課題 5
9	長期介護について	25	世界の健康長寿の課題 1
10	介護者のストレスと健康	26	世界の健康長寿の課題 2
11	終末期ケアについて	27	世界の健康長寿の課題 3
12	スピリチュアリティと健康	28	世界の健康長寿の課題 4
13	ソーシャルワーク実践	29	世界の健康長寿の課題 5
14	健康増進と予防について	30	後期のまとめ
15	前期のまとめ	31	
16	後期オリエンテーション		

【履修上の注意事項】

個人発表をもとに授業の関連資料（学術雑誌、研究論文、政府発行白書、一般紙）、その他の資源を院生が収集する。

【評価方法】

出席・クラス討論・授業内での発表内容・授業終了時のレポートの内容。

【テキスト】

必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

近藤克典『健康格差社会～何が心と健康を蝕むのか～』医学書院, 2005.
Berkman B. 『Handbook of Social Work in Health and Aging』Oxford Univ Press, 2006.
その他、適宜、論文等を紹介する。

老年社会科学特論

担当教員 Hiroko H. Dodge

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、老年期における身体的・知的変化の理解、栄養学的な視点からの理解、また社会生活と老年期の認知能力の関連などについて理解する。アメリカと沖縄の高齢者の比較研究の調査を元に身体的・知的側面の比較を行う。

【授業の展開計画】

1. Introduction of Instructor and Course
2. 高齢者の身体的変化の理解 1
3. 高齢者の身体的変化の理解 2
4. 高齢者の知的変化の理解 1
5. 高齢者の知的変化の理解 2
6. 高齢者の栄養学的側面の理解 1
7. 高齢者の栄養学的側面の理解 2
8. 高齢者の社会生活と長寿との関係 1
9. 高齢者の社会生活と長寿との関係 2
10. オレゴン州と沖縄の高齢者の比較研究の紹介 1
11. オレゴン州と沖縄の高齢者の比較研究の紹介 2
12. 沖縄の高齢者の身体的特徴 1
13. 沖縄の高齢者の身体的特徴 2
14. 沖縄の長寿の要因 1
15. 沖縄の長寿の要因 2
16. その他

【履修上の注意事項】

- ・ 討論が重要になるので、文献等を講義の前に読むこと。
- ・ 文献や討論時は、英語と日本語を併用する。

【評価方法】

出席日数、課題提出物、講義への積極的な取り組み等総合的に判断する。

【テキスト】

- ・ 特になし。講義中必要があれば指示をする。

【参考文献】

- ・ 講義中に必要に応じて資料等を配布・説明する。